



小特集
1

地域医療を支える



鹿児島県の医療の現状

地域や診療科によってかたよりのある医師数
鹿児島県は、南北約600キロメートルに及ぶ広大な県土を有し、その中には26の有人離島など、離島・へき地も多く存在しています。県全体の医師の総数は増加が続いているものの、こうした地理的な特性もあり、人口10万人当たりの

医師数で見ると、全国平均を超えるのは鹿児島市とその近郊のみ。それ以外の地域は全国平均を大きく下回っています。(左図)

また、全国的にも不足している産科や小児科などの医師も必要とされており、地域医療を守るため、医師不足を解消することが重要な課題となっています。



課題解決に向けて

鹿児島県が支える

離島・へき地で働く医師を育成

県内の離島やへき地で勤務しようと、鹿児島大学医学部や自治医科大学に入学した学生に対して、県などが修学資金の貸与などを行い、離島・へき地で診療にあたる医師を育てています。

若手医師に鹿児島をPR

医師になるためには、医師免許取得後、病院で2年間の研修を受ける必要があります。その場所は全国の中から選択できる仕組みになっています。研修医を確保するため、県内の病院や県医師会などと共に「オールかごしま」体制で研修病院のPRなどに取り組み、今年度は過去最多の109名の研修医が鹿児島で臨床研修を開始しました。



産科・小児科などの医師確保へ

子どもを安心して産み育てられる環境を作るため、特に医師不足が深刻な産科や小児科で働く医師を一人でも増やそうと、産科などの専門医を目指して研修を受ける医師に対し、奨励金の支給を行っています。また、産科医の処遇改善を進める医療機関や、産科医確保に取り組み市町村へ費用の支援なども行っています。

巡回診療

医師が常駐していない地域や、眼科耳鼻咽喉科・皮膚科の専門医のいない地域を対象に、巡回診療が行われています。



地域医療とは、その地域に責任をもって必要な医療を提供することだと思います。自分の限界への挑戦と、地域に協力支援を依頼する毎日です。



巡回診療車で各集落を定期的に訪れています
瀬戸内町へき地診療所
知念 崇先生



みんなを支える

地域医療を守る行動を

地域医療を支えるのは医療関係者だけではなく、「かかりつけ医を持って医師と良好な関係を築く」など、私たち一人ひとりが「オールかごしま」の一員として地域医療に協力していくことが大切です。



Interview 地域医療の現場で頑張っている先生方の声を聴きました!

コミュニケーションを大切にした診療を

大きな病院では、内科や外科など、症例ごとに診療する医師が分かれていますが、医師が一人しかない地域では、患者さんを総合的に診療する必要があります。責任のある仕事であり、地域の方の役に立てるといやりがいを感じています。

診療所には全ての医療機器がそろっているわけではありません。そのため、できるだけ早期に病気を発見し、治療していくことが重要です。よく「お酒やたばこを止めなさい」と注意され、その後検診に来なくなる方がいますが、そういった方も継続して診療所に来られるよう、コミュニケーションを大切に診察を行っています。多くの方に健康意識を持っていただきたいです。

医療スタッフや地域の方の支えを力に

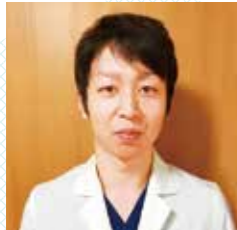
地域では高齢化が進み、車の運転が困難な方も多く、診療所の存在は住民の方の安心につながっています。医師は私一人であるため、早めに専門病院に紹介した方がいいのか、移動手段はどうするかなど、迷いや葛藤もあります。医療スタッフや地域の方の支えのおかげで、診療を続けられています。

通院困難な方には訪問診療を行っており、今まで知らなかった患者さんの退院後の生活や課題などが見えてきました。ここでの経験は、今後幅広い視野で患者さんを診られるようにして欲しいと思います。

これからの目標は、医療資源に乏しい地域に重要な「予防医療」の普及です。患者さんの近くにいるからこそ、積極的に活動を進めていきたいです。



〈Profile〉
南大隅町郡へき地出張診療所
花輪 麻衣 医師
自治医科大学医学部卒業。現在2人の子どもの子育てと仕事に奮闘中。快活で力強い人柄に惹かれる地域住民も多い。



〈Profile〉
南さつま市野間池診療所
濱田 高史 医師
自治医科大学医学部卒業。奥さんも地域の活動に積極的に参加するなど、家族ぐるみで地域に溶け込み、毎日を楽しんでいる。

問い合わせ先
県庁地域医療整備課
☎099-286-2653